

令和6年4月吉日

西武学園文理中学・高等学校

校長 マルケス ペドロ

## 2024年度以降の教育方針・様々な校則の見直しについて

この度、私たちの学校は教育方針の大きな転換点に立っています。長年、伝統と厳格な校則に基づいてきた教育体系から、主体性を育む教育へ、多様性を認め合う意識を培う教育へという大胆な移行を図る決断をしました。この変革の背後には、社会の変化に対応し、子どもたちが21世紀の多様な環境で生き生きと活躍できるようにするという強い意志があります。さらに、世界レベルの教育学者が打ち出している論説、最先端な教育機関が行っているエリート教育実践を基に、新たな教育方針を打ち出す必要があります。よってこの通知では「2024年度以降の教育方針について」と「様々な校則の見直しについて」をできるだけ分かりやすく、且つ詳細に説明させていただきます。議論を深めたい方やこの分野にご興味がある方には、最終ページの参考文献をぜひともご参照ください。

### ① 2024年度以降の教育方針について

#### 主体性を育む教育とは

教育の目的を再考し、学問を詰め込むのではなく、生徒一人ひとりが自分の興味や好奇心を追求し、自ら学び、考え、解決策を見出す力を育てることを目指します。このアプローチは、生徒が将来直面する予測不能な課題に対処するための柔軟性と創造性を養います。John Deweyの実験学習理論や(参考文献1)、Jean Piagetの建設的学習理論(参考文献2)など、数多くの教育学の研究がこのアプローチの効果を支持しています。生徒が自らの経験を通じて学ぶことで、より深い理解と長期的な知識の獲得が促されるのです。都内の事例校を挙げるのであれば、「主体性育成」を掲げる横浜創英中学高等学校や広尾学園、公立で言えば都立西高や世田谷区の区立桜丘中学校が代表的です。どれも進学校でして、どれも文理よりも遙かに多くの生徒を毎年最難関国公立大学受験に成功させています。詳細に関しては、それぞれの学校HPをご覧くださいと存じます。

#### 多様性を尊重し、共に学ぶ意識作り

大人世代とは違い、これからのデジタル社会・国際化社会で活躍する生徒は、親が生きている日本ではない日本を生きることになります。経済状況をはじめ、ダブル国籍や外国にルー

ツを持つ日本人口の増加（それに伴われる外見の多様化）、そして一番大きいのは世界を相手に競争しなければいけないところです。ローカルな文化だけにに基づき行動する人間、ローカルな価値観のみ理解できる人間は、世界レベルでは競争できません。伝統的な価値観を拒否したいわけではなく、それを持つのはとても良いことだと思いますが、それだけしか理解できないことは社会に出てからは大いに不利になることを懸念しています。そして教育者としてお子様の力を最大限に伸ばしたい目標を基に、異なる外見や価値観、文化背景などを持つ人々との交流を通じて、広い視野と寛容な心を育てる道以外に正解はありません。この教育方針の下では、生徒たちは様々な視点を持つ人々と効果的にコミュニケーションを取り、協力する方法を学びます。このような環境は、Vygotsky の社会文化理論（参考文献3）に基づき、学びの最も効果的な場は社会的な相互作用の中にあるとされています。多様化社会・急激に変化していく社会の中、差異を認め正当化した上で、多様な仲間と協力する意識がなければ、国内でも活躍できる場が大幅に限られます。

### 育てたい生徒像： 世界で活躍できる人間

そのためには学力に加えて育成すべきは：

- (1)主体性（行動力、判断力、自己表現力、自己肯定感）
- (2)多様性に対する肯定意識（様々な価値観、文化、外見、背景を認め、共存する）
- (3)デジタル・シティズンシップ

### ② 様々な校則の見直しについて

#### 校則変更の教育的な意味合い

私たちは、校則の大幅な緩和により、保護者の皆様の中には不安を感じられる方もいることを理解しています。ただ、それと同時に子どもたちが自らの判断で行動し、その結果に責任を持つ経験（失敗経験も成功経験も含め）は、彼らの成長にとって極めて重要な材料であることが教育学の研究データで証明されています（参考文献4）。また、数年前から文部科学省が日本の教育方針を「学問的な知識の蓄積」から「自分で考え、行動する人」へと非認知能力を重視する教育活動を促進しはじめています。デジタル社会・国際化社会の時代なのでこの新たな教育の在り方に合わせるべく、様々な学校が主体性教育を実施しはじめています。例えば、軽井沢風越学園がモデル中学校として全国で話題になっていますが、そこは校則もない、制服もない、教室などもないという「常に生徒に考えさせ、行動させる」最先端教育を実施しています、詳細は学校 hp をご覧下さい。また、都内で東大合格者数ランキング上位常連校の筑波大附属駒場、灘、麻布、西高などは校則が著しく緩く、制服もない学校がほとんどです。また、偏差値と校則の緩さが比例していると主張する教育者もいます（ご参考までに：[【徹底比較】校則の緩さと偏差値が比例するというウワサは本当なの？ | すい喬 Blog \(suikyoblog.com\)](#) そして、[高校の校則『ゆるい』と『厳しい』偏差値との関係性 | 知恵のガイド \(wisdom-guide.com\)](#)）。つまり、校則が変わることで文理の進学校と

してのイメージに傷が付くなどのような心配は全く必要ありません。現実データとしてその逆の傾向を示しています。校則が厳しい程、生徒の判断力は大人に信頼されておらず、子ども活動を制限する考え方になります。文理では、世界のリーダーとエリートを育成することが昔からの佐藤英樹創立者の教育理念であるからこそ、新校長である私はそれを尊重し、現代社会の文脈において実施したいからこそ、緩めることを決心しました。伝統を拒むためではなく、それを認めつつも、日々の学校生活を通して判断力・自己表現力を育む経験の場を与えるために校則の変更を行っています。

もちろん、この新たな校則の下で、失敗や課題点がこれから多々発生するでしょう。しかし、そして繰り返しになりますが、教育学論で言えば、Carol Dweck の成長マインドセット理論（参考文献4）は、挑戦を恐れずに取り組み、失敗から学ぶ姿勢が、子どもたちの能力の発展に不可欠であることを示しています。失敗は、学びと成長の機会であると捉えることで、生徒たちはよりリスクを取り、創造的な解決策を見出す力を養うことができます。よって、失敗があればそれをしかる、叩くというよりも、「なぜ失敗したか」、「どうすれば次回は失敗しなくなるか」を我々が常に生徒と一緒に考えることによって、真の意味での教育を実施することが可能になります。以下の校則変更は全て：①多様性を認め、共存する意識育成、②自己表現力育成を狙うものであり、伝統的な学校の価値観（世界のリーダー育成）とは相違なる点は全くありません。

## 参考文献

### 【1】 デューイの教育について

・ジョン・デューイ

／Hitopedia(<https://hitopedia.net/ジョン・デューイ/#gsc.tab=0> 2024.4.15 最終確認)

・デューイの教育の理論の大切な考え3つ (プラグマティズム・プロセス重視・民主主義)

／旅する応用言語学 (<https://www.nihongo-appliedlinguistics.net/wp/archives/10261> 2024.4.15 最終確認)

・ジョン・デューイ著, 市村 尚久訳(2004)『経験と教育』 (講談社学術文庫)

### 【2】 ジャン・ピアジェについて

・ジャン・ピアジェとは? 認知発達理論などの業績や経歴をわかりやすく解説

(<https://psycho-psycho.com/jean-piaget/> 2024.4.15 最終確認)

・ジャン・ピアジェ著, 岸田秀 他 (訳) (2002)『哲学の知恵と幻想』 (みすず書房)

### 【3】 ヴィゴツキーについて

・【学者的紹介】 ヴィゴツキー L.S.Vygotsky／東京大学大学院情報学環・学際情報学府 山内研究室 (<https://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp> 2024.4.15 最終確認)

・L・S. ヴィゴツキー著, 菅田 洋一郎 他訳(2022)『子どもの心はつくられるーヴィゴツキーの心理学講義』 (新読書社)

・ヴィゴツキーの理論について (発達の最近接領域、内言、高次精神機能) ／旅する応用言語学 (<https://www.nihongo-appliedlinguistics.net/wp/archives/10339> 2024.4.15 最終確認)

### 【4】 その他

・【書評と要約】「やれば出来る」の研究「マインドセット MINDSET」

キャロル・S・ドゥエック(著) 自分の変化と可能性を信じる力とは／CreativeIdeaNote (<https://ideanotes.jp/book18/>) 2018.8

・キャロル S.ドゥエック著, 今西 康子訳 (2008)『「やればできる!」の研究ー能力を開花させるマインドセットの力』 草思社

令和6年度 西武文理中学・高校 校則について

全生徒・全教職員

1, 清潔であること

2, 品があること

服 装	指定された日は制服で登校（それ以外は私服可）
頭 髪	長さ、色、形は問わないが、顔が認識出来るように整える 体育時は結ぶ（肩より長い場合）
その他	つけ爪禁止（安全のため）
	アクセサリ、ピアス、等は自由（しかし体育では安全のため取り外す） 自転車利用者は、ヘルメット着用（新入生からは登録時にヘルメット購入）

上記の指定以外は個人の自由選択となります。

学校のイメージ、自分個人のイメージを汚さない格好を意識しましょう。

社会のルールを守り、学校生活を送りましょう。